

北雪時代鏡
美談

外題曲多國歌

為永妻少化
一壽多國

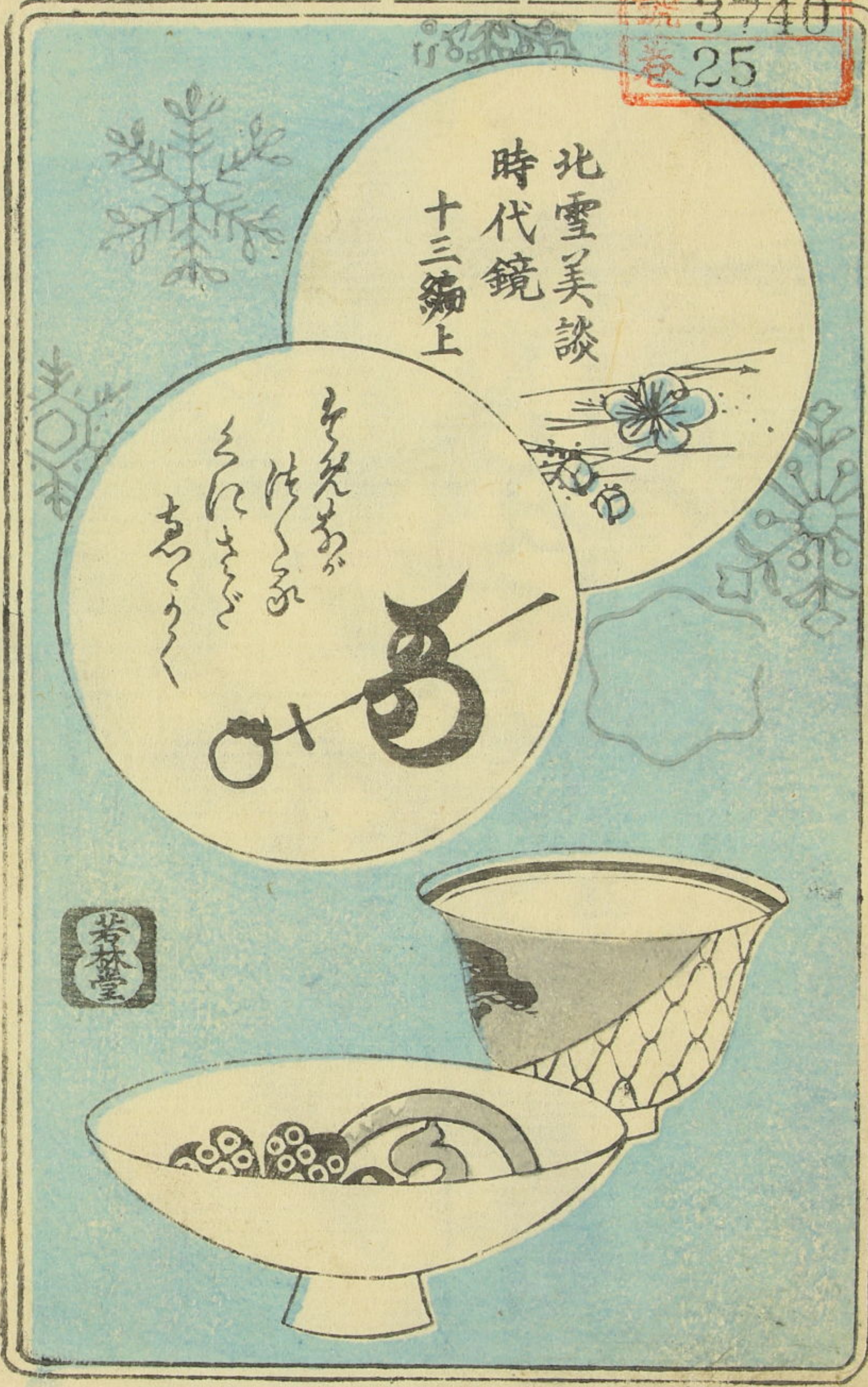
十三編上

13
3740
25



門 へ 13
 號 3740
 卷 25

北雪美談
 時代鏡
 十三編上



そえあが
 はくま
 むらさき
 まつり

若林堂

一 七



編 小冊と巻紙開きの看官千人寄給千の

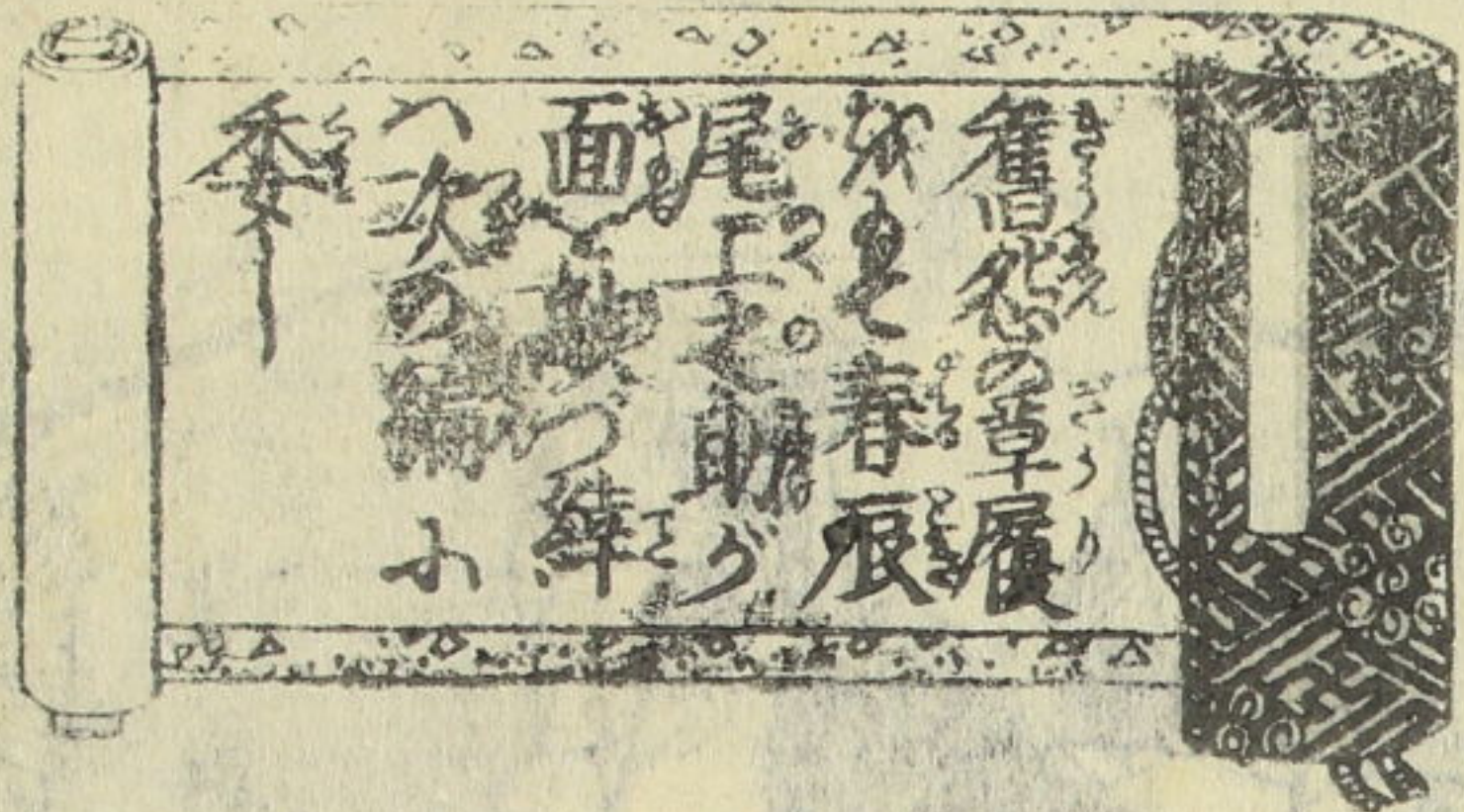
昨日は今日へ古しとする。移るも速き流行變化源
 氏風の大將鬘も澤山かまふ俗も愛を美貌の
 義賊前髪の光棍今の時便は是あらんう
 らんと案紙凝せどひらの意紙もて
 小冊と巻紙開きの看官千人寄給千の
 お眼十のお心ある故ふ。這方宜けれ、那方向くを
 實との以前柳亭翁が遅湯好た熱湯好きふ
 たとられし論を、上戸は餅の喰されぬ紙又お
 替りの十三編縦ひち口ふ合むとも、土産ありと遊せこの入

安政五輪
 千のしん春

為永春水記

寺七十三

初浦尾上之助



藤浪由縁之丞





實八輕下
 魚
 女乞食
 實八輕下
 魚

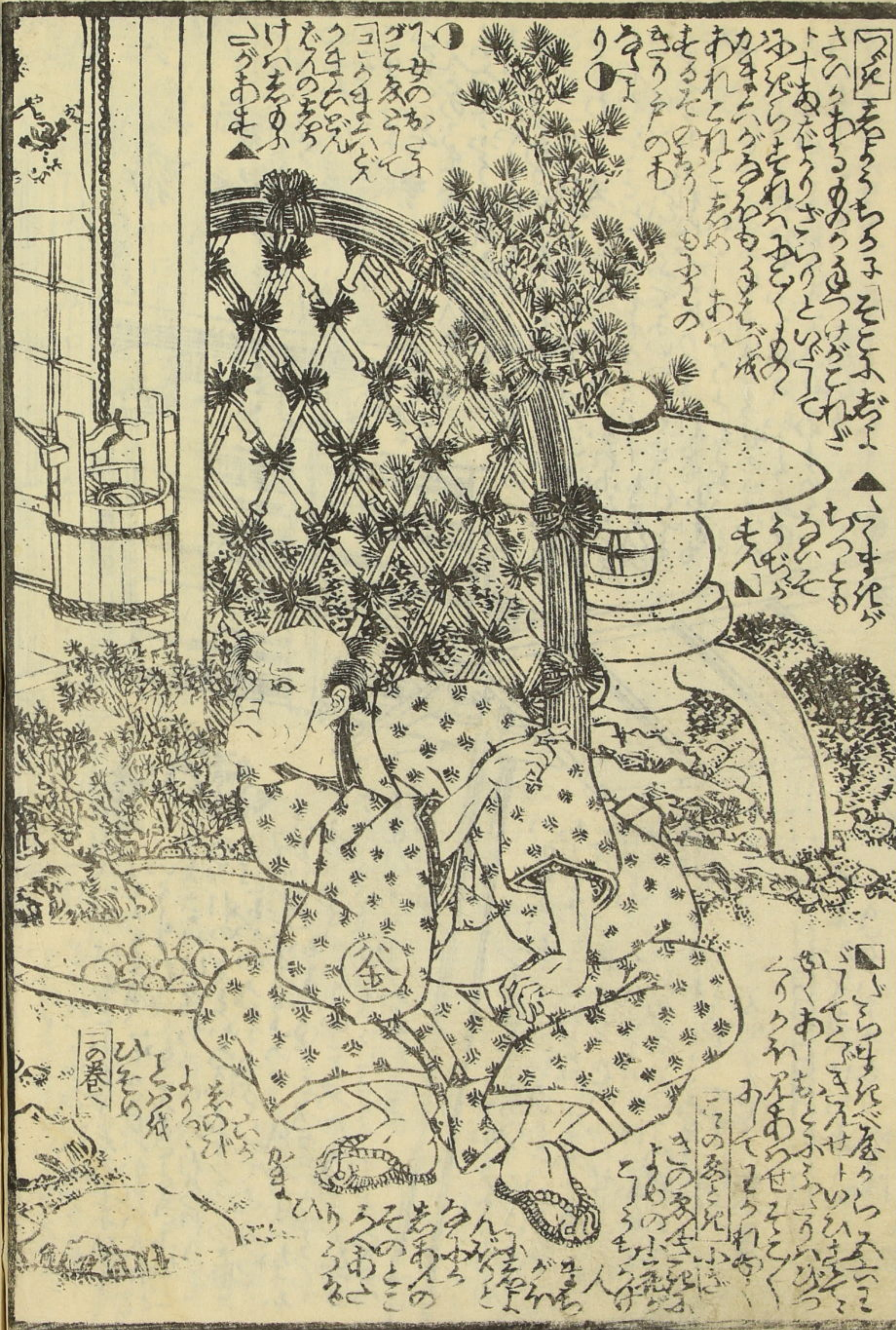
阿谷



大國
 下口の郷士
 佐原
 主藤



寺代十三



甲代十三

五



